

週目点

川本 裕子 早稲田大学教授



▶23日からG7財務相会議

「春うらら景気」では…

二十三日から七カ国(G7)財務相・中央銀行総裁会議が米ワシントンで開かれる。イラク情勢という懸念材料はあるが、世界経済が回復基調をたどっていることもあり、為替問題などで各国が角を突き合わせることはなさそうだ。

日本も好調な米中輸出を支えに景気が底離れし、株価が上昇している。毎年恒例の「年度末危機説」も今年は聞かれず、かつての危機ムードは影をひそめている。

しかし、この一年間で日本経済の構造が何か変わったのだろうか。銀行の収益性は低いままだ。年金改革は数字のつじつま合わせに終わった。金融システム正常化に不可欠な郵政民営化の議論も、今のままでは心もとない。いずれ将来への不安が再び頭をもたげれば個人消費は手控えられ、景気に悪影響を与える。

政府も企業も「改革の在庫一掃」に取り組む時期だ。ちよっと良くなったからと弛緩(しかん)していれば、「春うらら景気」に終わりがかねない。